

エコバッグを用いて海洋プラスチック問題に対しての意識を高めることは可能か

気仙沼高校 3401A

言葉の定義

海洋プラスチック問題:
海中ゴミの中にレジ袋等のプラスチックゴミが含まれていること。

意識を高める: 海洋プラスチック問題について理解し、気高生の5割以上がエコバッグを使うようになる。

I 序論

<目的>

エコバッグを使用することで環境問題の原因を少しでも減らすため。

<背景>

気高生はエコバッグを持っているが日常的に使っていない人が多い。

II 本論

<調査対象>

気仙沼高校生徒(172人)

<調査・実験方法>

1 アンケート調査

- ・エコバッグを持っているか。また使っているか。(図1)
- ・気仙沼のエコバッグを知っているか。またどこで知ったか。

2 エコバッグを持っているが使っていない人が多いという結果から解決方法を考える。

III 結論・今後の展望

<結論>

エコバッグを持っていない人
→ 購買や気高の行事で販売。
エコバッグを持っているが、使っていない人
→ 放送による呼びかけ。エコバッグを使うことでメリットがあるようなイベントの実施。
ex) 文化祭のバザーでエコバッグを持参すると、特典がある。

<今後の展望>

- ・実際に気高内でイベントを実施する。
- ・気高生だけに限らず、気仙沼市民がもっとエコバッグを使うようになるようなイベントを考え、実施してみる。

アンケート結果
図1

